

学会記事

【第15回総会】（2022年6月26日，出席者33名）

呉羽正昭庶務委員長の司会進行の下，高橋重雄会長の開会の辞のあと，コロナ禍での開催という事情もあり，呉羽庶務委員長が自ら議長を務めること，佐藤大輔庶務委員に書記を委嘱することについて，出席会員から承認を得たのち，総会を開始した。

I. 2021年度会務報告について

松井圭介常任委員長より会員数（2022年6月9日現在，376名），第14回大会（2021年6月10日，参加者114名，つくば市イノベーションプラザにてオンライン併用のハイブリッド開催；口頭発表9件，ポスター発表7件，会長講演），巡検（2022年2月5日，参加者25名，オンライン開催「新宿・渋谷副都心における都市機能の性格とその変遷～変わる人・建物都心部からの機能移転と両副都心の差異化～」），第29回例会（2022年2月28日，参加者33名，オンライン開催「オーストラリアの先進的な統計利用—テーブルビルダーの利点と可能性—」（オーガナイザー：堤 純），発表5件），機関誌「地理空間」第14巻1～3号の刊行，「地理空間」掲載論文のJ-Stage掲載，ニューズレター（第35号）の発行，ホームページおよびメーリングリスト（jags-ml）の運営，日本学術会議協力学術研究団体の認定（2013年9月24日から），および2022年度学会賞（下記）について報告があった。会務報告に関しては異議なく承認された。

[地理空間学会学会賞]

<特別賞>

特別賞：山下清海 会員

受賞対象：

山下清海『東南アジアのチャイナタウン』古今書院，1987年。

山下清海『シンガポールの華人社会』大明堂，1988年。

高橋伸夫・山下脩二・菅野峰明・手塚章・山下清海『世界地図を読む—図説世界地理—』大明堂，1993年。

山下清海『チャイナタウン—世界に広がる華人ネットワーク—』丸善，2000年。

山下清海『東南アジア華人社会と中国僑郷—華人・チャイナタウンの人文地理学的考察—』古今書院，2002年。

山下清海編『華人社会がわかる本—中国から世界へ広がる華人ネットワークの歴史，社会，文化—』明石書店，2005年。

山下清海編『エスニック・ワールド—世界と日本のエスニック社会—』明石書店，2008年。

山下清海『池袋チャイナタウン—都内最大の中華街の実像に迫る—』洋泉社，2010年。

山下清海編『現代のエスニック社会を探る—理論からフィールドへ—』学文社，2011年。

山下清海編『改革開放後の中国僑郷—在日老華僑・新華僑の出身地の変容—』明石書店，2014年。

山下清海編『世界と日本の移民エスニック集団とホスト社会—日本社会の多文化化に向けたエス

ニック・コンフリクト研究一』明石書店, 2016年.

山下清海『新・中華街—世界各地で〈華人社会〉は変貌する—』講談社, 2016年.

山下清海『世界のチャイナタウンの形成と変容—フィールドワークから華人社会を探究する—』
明石書店, 2019年.

山下清海『横浜中華街—世界に誇るチャイナタウンの地理・歴史—』筑摩書房, 2021年.

<学術賞>

学術省：加藤晴美 会員

受賞対象：

加藤晴美『遊郭と地域社会—貸座敷・娼妓・遊客の視点から—』清文堂, 2021年.

学術賞：渡辺悌二 会員・白坂 蕃 会員

受賞対象：

渡辺悌二・白坂 蕃編著『変わりゆくパミールの自然と暮らし—持続可能な山岳社会に向けて』
ブイツーソリューション, 2021年.

<奨励賞>

該当なし

II. 2021年度決算報告・監査報告について

山下亜紀郎会計委員長より2021年度の一般会計および特別会計の決算案が提示され、その収支について村山祐司会計監査、山下清海会計監査より適正であると承認したことが報告された。2021年度決算案は異議なく承認された。

III. 2022年度事業計画について

松井圭介常任委員長より2022年度事業計画について、「地理空間」第15巻1～3号の刊行、第15回大会の開催（2022年6月26日、つくば市）、第16回大会の開催計画（2023年、場所未定）、巡検の開催、例会の開催、学会賞や若手研究者助成による研究奨励、ニューズレターの発行（発表要旨特別号の発行を含む）、ホームページとメーリングリストの管理・運営が提案された。2022年度事業計画は異議なく承認された。

IV. 2022年度予算案について

山下亜紀郎会計委員長より2022年度予算案について、収入と支出に関する説明がなされた。2022年度予算案は異議なく承認された。

V. 役員・専門委員会の構成について

松井圭介常任委員長より役員および専門委員会（2022年7月1日～2024年6月30日）の構成員について提案があり、承認された。

2022～2023年度役員（2022年7月1日～2024年6月30日）

会長：加賀美雅弘（東京学芸大）

会計監査：村山祐司（筑波大名誉），山下清海（筑波大名誉）

常任委員：松井圭介（常任委員長，筑波大），呉羽正昭（庶務委員長，筑波大），山下亜紀郎（会計委員長，筑波大），森本健弘（集会委員長，筑波大），堤 純（編集委員長，筑波大）

評議員：秋山千亜紀（大東建託賃貸未来研究所・筑波大），池庄司規江（茨城大），池田真利子（筑波大），井田仁康（筑波大），伊藤徹哉（立正大），岡村 治（立正大），兼子 純（愛媛大），川瀬正樹（広島修道大），木村昌司（茗溪学園），久保倫子（筑波大），呉羽正昭（筑波大），駒木伸比古（愛知大），篠原秀一（秋田大），杉本興運（東洋大），須山 聡（駒澤大），堤 純（筑波大），中西僚太郎（筑波大），中村理恵（高崎女子高），仁平尊明（東京都立大），林 琢也（北大），平井 誠（神奈川大），福本 拓（南山大），藤永 豪（西南学院大），松井圭介（筑波大），丸山浩明（立教大），三木一彦（文教大），三橋浩志（文科省），森本健弘（筑波大），山下亜紀郎（筑波大），山下宗利（佐賀大），吉田道代（和歌山大），若本啓子（宇都宮大） 32名

<専門委員会>

庶務委員会：呉羽正昭（委員長），秋山千亜紀（副委員長），黒澤俊平，佐藤大輔，鈴木修斗，中川紗智，橋爪孝介，吉沢 直

会計委員会：山下亜紀郎（委員長），久保倫子（副委員長），麻生紘平，薄井 晴，中村瑞歩

集会委員会：森本健弘（委員長），遠藤貴美子，大沼勇斗，川添 航，小林飛文，坂本優紀，佐野浩彬，竹原蘭子，矢ヶ崎大洋

編集委員会：堤 純（委員長），須山 聡（副委員長），橋本暁子（副委員長），飯塚 遼，井口 梓，石井久生，磯野 巧，伊藤徹哉，大石貴之，片岡博美，久木元美琴，小島大輔，佐藤大祐，田中耕市，淡野寧彦，仁平尊明，橋本 操，林 琢也，平井 誠，福本 拓，藤田和史，山本健太，吉田道代
（書記）：岩井優祈，村田航平

学会賞選考委員会：（※2022年7月1日～2023年6月30日，1年間）

井田仁康（委員長），岩間信之，中村周作，仁平尊明，横山 智

VI. その他

とくになし。

以上で議事を終了し，呉羽議長による書記と議長の解任が行われた後，呉羽庶務委員長の閉会の辞をもって，総会は終了した。

【大会報告】

第15回大会（2022年6月26日、つくば国際会議場において対面形式で開催、出席者33名）

・一般発表

（*は共同発表の登壇者）

竹原繭子（筑波大・院）：地理学における空間認知研究の従来手法の妥当性の検討—行動地理学と空間情報科学の近年の動向から—

Mao Yaqian*（筑波大・院）・久保倫子（筑波大）：天津市における高齢者の生活行動に対する結合の制約の影響

廣部恒忠（明海大）：東京圏における人口移動の地理的な特徴や関連性等について

高橋珠州彦（明星大）：東京市外縁における谷頭湧水を活用した近郊別荘—武蔵野町吉祥寺「飯田別荘」の復元的考察—

白坂 蕃*（東京学芸大・名誉）・渡辺悌二（北海道大）：ネパール東部クンプ=ヒマールにおけるツーリズムの進展による農牧業と集落の変容

田林 明（筑波大・名誉）：日本における農業の存続・発展の可能性と農業地域区分の意義

仁平尊明（東京都立大）：多変量解析による日本の農業地域区分の課題と問題点—2000年の北陸地方と日本全体の農業地域区分を例に—

駒木伸比古（愛知大）：日本農業の存続・発展戦略に基づく地域区分の試み—2015年農林業センサスの結果を用いて—

菊地俊夫（東京都立大）：首都圏における「農」資源の観光活用ポテンシャルによる地域区分—存続・発展のもう一つの方向性からみた日本の農業地域区分の新たな試みとして—

大石貴之*（岡山商科大）・駒木伸比古（愛知大）：地域社会維持のための農業からみた日本の農業地域区分の可能性—中国山地を事例に—

・シンポジウム：変容する郊外：高齢化・都市縮退を乗り越えて

久保倫子（筑波大）：趣旨説明

岩井優祈*（学振PD・日本大）・岡田晃暉（筑波大・院）・中村瑞歩（筑波大・院）・久保倫子（筑波大）：龍ヶ崎市郊外住宅地における地域への帰属意識の形成過程—龍ヶ崎市M地区に住む高齢者の事例—

薄井 晴*（筑波大・院）・石井久美子（元筑波大・院）・宇野広樹（元筑波大・院）・王 倚竹（筑波大・院）・洪 珺（元筑波大・院）・松井 茜（元筑波大・院）・佐々木悠理（筑波大・院）・Mao Yaqian（筑波大・院）・久保倫子（筑波大）：竜ヶ崎ニュータウンにおける住民自治組織と地区住民の社会関係の変化

清水友輝*（筑波大・院）・Mao Yaqian（筑波大・院）・久保倫子（筑波大）：日本における COVID-19 パンデミックの中での高齢者の日常行動の分析：東京大都市圏郊外の龍ヶ崎市の事例

久保倫子*（筑波大）・清水友輝（筑波大・院）・Mao Yaqian（筑波大・院）・岩井優祈（学振PD・日本大）：都市の空き家問題と家・家族・福祉の相互関係の変化

【地理空間学会会則】

地理空間学会ホームページをご参照ください。

URL : <http://jags.ne.jp/>

【編集委員会からのお知らせ】

2022年4月～2022年9月：未受理原稿および左記期間に投稿された6本の原稿について閲読結果をもとに検討した結果、「リサーチ・ペーパー」1編、「地理資料」2編を受理した。

【編集委員会からの J-Stage 公開のお知らせ】

機関誌『地理空間』の Web 上での公開方法が変更になりました。「論説」や「リサーチ・ペーパー」などの論文はすべて J-Stage 上 (<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jags/-char/ja>) で公開することになりました。なお、次号の掲載までの「最新号」については、各論文の要旨のみ地理空間学会ホームページ上 (<http://jags.ne.jp/>) で公開し、最新号の刊行と同時に、前号の全文を J-Stage 上で公開いたします。なお、書評や学会記事、例会要旨などについては、引き続き、本学会ホームページ上でのみ公開いたします。

【次号以降の投稿について】

第16巻1号は、2023年6月20日の発行を予定しております。第16巻1号の原稿については随時受け付けておりますが、第16巻1号に掲載されるには、2023年3月末までに受理が出ている必要があります。内容は最新の論争から時事性、トピック性の高いテーマ、丹念な調査に基づく活きのよい事例研究まで幅広く受け付けております。会員皆様の活発な寄稿をお待ちしております。

本学会の活動を幅広く認知してもらうために、会員の皆様の大学研究室や大学・高校の図書館におきまして、会誌『地理空間』の定期購読を是非ご検討のほどお願いいたします。ご購入いただける場合には、編集委員会 (geospace@geoenv.tsukuba.ac.jp) までお知らせください。

【オンライン版（電子版）の3号の刊行について】

2016年度総会において、現行の年2号の紙媒体での印刷・発行に加え、オンライン版（電子版）の3号（年度末発行）を新たに発行することが決まり、すでに9巻3号（2017年3月）、10巻3号（2018年3月）、11巻3号（2019年3月）、12巻3号（2020年3月）、13巻3号（2021年3月）、14巻3号（2022年3月）を刊行しました (<https://jags.ne.jp/archives/2201>)。オンライン版（電子版）の3号の概要は以下の通りです。

- ・シンポジウム報告を含む特集論文は、各巻3号に掲載する。
- ・特集論文の企画代表者は学会員に限る。ただし、各論文の著者については、会員か非会員かは問わない。
- ・特集論文の企画は、毎年度9月末日までに企画代表者が事務局（編集委員会）へ申し出る。
- ・企画代表者は、編集委員会にゲストエディターとして加わり、当該特集論文の査読・編集に携わる。
- ・特集論文の掲載・発行にかかる実費相当額（校正費用と PDF 作成費を合わせた1ページ当たりの実費：約4,000～5,000円）は、企画代表者（または論文の著者）が負担する。
- ・各巻3号は、発行後速やかに J-Stage 上 (<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jags/-char/ja>) で公開する。

紙媒体の1, 2号は, これまで発行から半年後に学会 HP で公開していたが, これを変更し次号発行時に学会 HP で公開する。すなわち, 各巻1号は2号発行時, 2号は3号発行時に学会 HP で公開する。
・3号の印刷物(有償)を希望する会員は, 個別に事務局へ相談する。

【投稿規程 & 執筆要項】

地理空間学会ホームページをご参照ください。

URL : <http://jags.ne.jp/>

【新入会員】 (2022年6月10日～2022年12月1日)

綾田泰之(株式会社地域科学研究所)

高松宏弥(武蔵野大)

王 倚竹(筑波大・院)

竹原繭子(筑波大・院)

(会員数 : 379名, 2022年12月1日現在)